

はじめに

このガイドブックは、市民の皆さんに認知症の概要について理解していただくとともに、ご自身やご家族が認知症になったときの不安を少しでも軽減していただけるように、認知症の進行状況に応じて、さいたま市内でどのようなサービスや支援を利用することができるのか、情報をまとめたものです。

このガイドブックを活用していただくことで、認知症についての不安を解消し、認知症の方も介護する方も、共にさいたま市で安心して暮らしていくための参考としていただければ幸いです。

さいたま市の認知症に関する統計

さいたま市でも、高齢者人口は増加の一途をたどっていますが、特に75歳以上の高齢者数が令和7（2025）年には約20.2万人と、令和2（2020）年から約3.7万人増加する見込みです。高齢化の進行に伴い、認知症の人も年々増加しています。全国の認知症の人の数は、平成24（2012）年で462万人と推計されており、令和7（2025）年には約700万人、65歳以上の高齢者の約5人に1人に達することが見込まれています。

さいたま市の認知症高齢者数は、令和2年度末時点で3万人^{*}を超えており、ここ数年、毎年1,000人程度の規模で増加が続いています。また、このほかに、65歳未満のいわゆる若年性認知症の方が約500人いると推計されています。介護保険の要支援・要介護認定データで把握していない軽度の方も含めると、潜在的にはより多くの方が何らかの認知症を有していることが推測されます。

さいたま市の認知症高齢者数の推移



※ 資料：さいたま市介護保険課

将来推計値は、平成22年から令和5年の9月末時点までの認知症高齢者数を基にした要介護別・性別・年齢構成区分別の出現率法による算出結果

● 認知症になってもいきいきと暮らせるまちへ

このように、今や認知症は、誰もが何らかのかたちで関わる可能性のある、身近な病気です。

多くの方は、認知症になることを不安に感じ、認知症になると何もできなくなると考えています。しかし、できないことを様々な工夫で補いつつ、できることを活かし、希望や生きがいを持って、いきいきと元気に暮らしている認知症の方も数多くいらっしゃいます。認知症に対する否定的なイメージの一方で、認知症と共に幸せに生きることができるのです。

たとえ認知症になっても、認知症と共に自分らしく、安心して暮らし続けることができる地域づくりに、今から一緒に取り組んでいきましょう。

● 認知症の人にやさしい地域づくりに向けた取組の紹介

認知症月間及び認知症の日

毎年9月は「認知症月間」、9月21日は「認知症の日」です。さいたま市でも、この期間を中心に、アルツハイマー型認知症をはじめとする認知症の啓発を目的として、認知症の人と家族の会埼玉県支部や埼玉県とイベントを実施しています。



オレンジリング絆フェス

令和5年度は市役所の入口で認知症の啓発ポスターや若年性認知症本人による写真展を行いました。イベントを通じて認知症に対する啓発を図っています。

認知症サポーターの養成

認知症について正しい知識を持ち、認知症の方とそのご家族を地域で支える応援者となる「認知症サポーター」の養成を市内各地で推進しています。



さいたま市立常盤中学校の
全校生徒の認知症サポーター
養成講座の様子



認知症サポーターの証 「オレンジリング」

オレンジ色のリストバンドです。認知症サポーターは、常に「オレンジリング」を着用するよう心がけ、さいたま市をオレンジリングがあふれる街にしましょう。